



国際高等専門学校

教育情報 公表資料

令和7年5月1日現在

目 次

目 次

1. 教育研究の目的・構成・取組み	1
1.1 学校法人金沢工業大学建学綱領	1
1.2 教育目的・教育目標	2
1.3 学科	3
1.4 三つの方針について	4
2. 学事運営組織	7
2.1 学事運営組織と役割	7
2.2 教育支援・学習支援組織と機能	8
3. 教員	12
3.1 教員の構成	12
3.2 基幹教員	12
4. 志願者・在学者・卒業者の状況	13
4.1 志願者・入学者の状況	13
4.2 在学者の状況	13
4.3 進路状況	13
5. 授業	14
5.1 本校教育の特色	14
5.2 主要科目の特長や目標等	16
5.3 各学科で修得する知識・能力	17
5.4 学習支援計画書（シラバス）	17
5.5 単位認定と成績評価	18
5.6 進級要件及び卒業要件	21
5.7 自己点検・評価について	22
6. キャンパス構成	24
6.1 キャンパスの所在地と構成・概要・交通手段	24
6.2 校舎の耐震化率	25
6.3 健康・体育施設	25
7. 入学金・授業料・その他の費用	28
7.1 入学金・授業料ならびに寮費、食費	28
7.2 ICTリーダーシップアワード 奨学生制度	29
7.3 学生寮・下宿	29
8. 課外活動と課外学習	30
8.1 学生会、クラブ活動	30
8.2 学科・研究室・教育支援センターによる課外の学習プログラム	30
8.3 夢考房プロジェクト	30
8.4 地域連携への取り組み	31
9. 外部評価の状況	32
10. 財務情報	33

◆データ等は令和7年5月1日現在のものです◆

1. 教育研究の目的・構成・取組み

1.1 学校法人金沢工業大学建学綱領

(1) 本学園の使命

日本の学校教育法は「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と述べています。

また、アメリカの故ケネディ大統領は、1963 年 6 月 10 日、アメリカン大学の卒業式において『平和の戦略』と題する演説を行いました。この演説はあの有名なリンカーン大統領の『ゲチスバーク演説』に比すべき歴史的な演説といわれています。彼はその中で「この地上にあるもので大学ほど美しいものはないであろう。大学は無知を憎む人々が知ることに努め、真理を知っている人々が、他の人々の眼を開かせようと努める場であるからである。」と、彼らしい格調の高い言葉を引用して大学の使命を語っています。

これら二つの表現において、学校教育法は学理的に、ケネディ大統領は高踏的に、それぞれ大学の使命を定義づけています。たしかに、大学は学術の中心であって、常に高度の教育実践と斬新な研究活動を行い、日本及び世界学術の進歩と国際文化の向上に寄与することを使命とし、高等専門学校は、産業日本の発展を担う優秀な技術者を育成することを使命としているのであります。

(2) 教育原理の焦点

さらに、一般的教育とは、哲学者フヒテの唱えるように、人間自身を形成することであり、人間を彼自身たらしめることであります。また、教育学者ナトルプのいうように人格を陶冶することでもあります。陶冶とは個人の完全なる形成を意味します。

それゆえ、学園の使命を具体的に挙げれば、人間形成、学術探究及び職業教育の三つの項目を数えることができます。この三つの項目は、いずれも重要な意義を持っていますが、窮極においては、人間形成に重点を置いているのであります。要するに、学術探究、職業教育によっても人間形成は可能ではありますが、人間形成を除外して、学術探究も職業教育もありえないのであります。したがって、使命の本質は、最高の知能と深奥な教養のある指導的人間の育成の場であると断言してよいと思うのであります。

このように、学園を人間形成の場として重視すれば、学生生活はただ単に教室、実験室及び図書館にのみあるのではなくて、その文化活動、体育奨励、寮生活の指導、厚生施設、衛生管理、生活相談及び就職斡旋などあらゆる部門、すなわち常住坐臥そのものが重要な意義を持つことになります。

(3) 学園共同体の倫理

以上の観点に立てば、人間形成ということは、官学たると私学たるとを問わず、およそ共通の最大の使命であります。特に私学においては、教育の担当者は、ひとり教授のみならず、広く理事者及び職員をも含むべきことを理解せねばなりません。したがって、本学園においては理事、教職員及び学生の三位一体の学園共同体を築き上げることによって、真に人間形成の場となし、民主主義日本の期待する人間像の生まれ出る温床とすべきであります。

しかも、私学は官学に比較して、私立学校法によって一定の基準を守り、監督を受けねばならないとしても、複雑な法的規制や煩瑣な官僚統制を免れて、はるかに自由な立場にあります。戦前においては、私学に対する当局の監督統制は、今日よりは、はるかに厳格を極めていましたが、それにもかかわらず、私学は、それぞれ独自の伝統と堅実な学風を育て上げたのであります。

いずれの私学においても、その経営の企画と財政の確立のために多大の苦慮を払いながら、なおかつ香り高き矜持を失わないのは、実にこの自由の立場が存在するからであります。それゆえにこそ、本学園においては、技術時代に先駆する革新的な産学協同方策を高く旗標として掲げて、経営管理の最高責任者である理事会は、教育研究の直接担当者である教職員及び研学当事者である学生の全面的な協調を得て、その抱負経綸を実現するため、私学の特長を遺憾なく発揮して縦横自在な活動を行い、高邁な学風を築かんとするものであります。

見られよ。古き校史に彩られた私学の中には、その創設者の人格と識見によって建立され、長き歳月と烈しい風雪に耐えて鍛え上げられ、独自の伝統と質実な学風を誇っているものが数多く存在しているのであります。例えば早稲田大学における大隈精神、慶応義塾大学における福沢精神、また、同志社大学における新島精神のごときであります。本学園においても、ここに述べる建学綱領を基盤として日本の学界に垂範する崇敬に値する風格を樹立せねばなりません。

(4) われらの行く栄光の道

戦後におけるわが日本の経済的発展は、敗戦というおなじ運命を辿り、ともに復興の道を進んだ西ドイツの奇蹟的發展を、はるかに凌駕する神秘的發展を遂げたのであります。この偉大な成果は日本人の知能と技術と勤勉の総合的所産であります。

いまや、本学園はこの偉大な民族的栄光をバックボーンとして、郷土石川県、北陸三県、中部圏及び日本海沿岸地区の地域開発のための学術的母体と技術的基地の主役を演ずるとともに、さらに世界市場に挑戦する産業日本の要求する最優秀な技術者と最上級の経営者を養成すべき重責を双肩に担っているのであります。

進んで将来は、現代アメリカの科学技術の聖地ともいべきマサチューセッツ工科大学の運営方針に学んで、日本の宇宙開発より産業社会学に至るまで、最高水準を誇る第一流の学園たらしめんとする大志を実現して、民主主義日本の学界に偉大な栄光を捧げんとするものであります。われわれは、この国家的至上使命を遂行するために本学園のあらゆる機能を結集して、その共同的総力を挙げて精進する決意を持たなければなりません。

昭和 40 年 2 月

(5) 三大建学旗標

金沢工業大学及び国際高等専門学校は、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、学園創設理事である泉屋利吉翁が定めた三大建学旗標の具現化を目的とする卓越した教育と研究を実践し社会に貢献します。

高邁な人間形成	我が国の文化を探究し、高い道徳心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者・研究者を育成します。
深遠な技術革新	我が国の技術革新に寄与するとともに、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者・研究者を育成します。
雄大な産学協同	我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献します。

1.2 教育目的・教育目標

(1) 教育目的

本校および各学科における教育目的は次のとおりです。

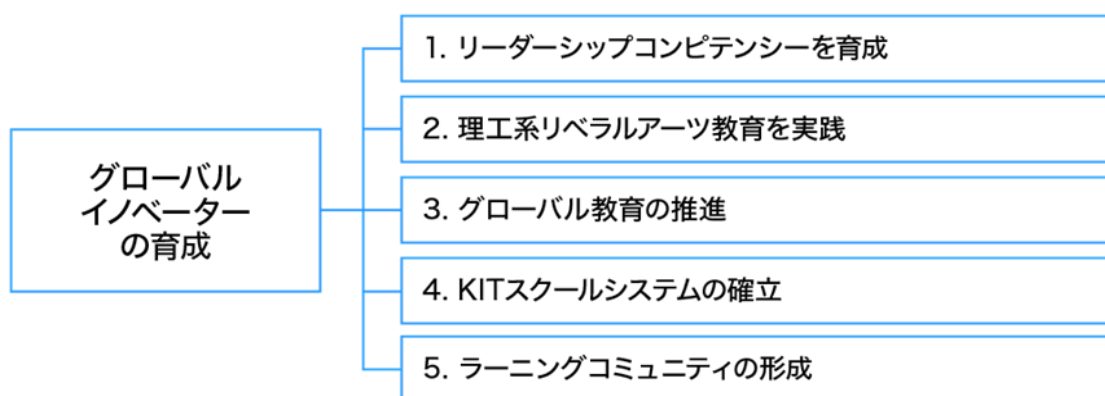
国際高等専門学校学則「第 3 章 組織及び定員 第 6 条、第 6 条の 2」より
 第 6 条 本校に国際理工学科を置く。
 第 6 条の 2 国際理工学科は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた創造的・実践的技術者の養成を目的とする。

国際高専 2025 In Sight

国際高等専門学校（以下、本校）は、社会全体が大きく変化する中において、新たな価値を創出し活躍できるグローバルイノベーターの輩出を目的とした、全く新しい高等専門学校であります。

第1学年・第2学年は大自然に囲まれた白山麓キャンパスで、授業の多くを英語で学ぶ全寮制教育を行い、地域社会や産業界と協力し、国連が定めたSDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) を目指すプロジェクトに取り組みます。第3学年はニュージーランドの国立オタゴポリテクニクに全員が1年間留学し、第4学年・第5学年は金沢キャンパスで隣接する金沢工業大学生との共創教育を実施します。

本校は、我が国の先駆となる理工学教育を着実に成功へと導き、KIT スクールシステムを基盤とし更なる発展を遂げることを目的に「国際高専 2025 In Sight」を策定しました。



【教育目標】 「グローバルイノベーターの育成」

【ICT Educational Mission】 “Fostering Leaders of Global Innovation”

国際高専 2025 In Sight は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/ja/about/2025-in-sight/>で紹介しています。

1.3 学科

■ 国際理工学科

(1) 入学定員及び収容定員

入学定員は、国際理工学科 35 名で、令和 7 年度の収容定員は表 1 - 1 のとおりです。

表 1 - 1 令和 7 年度入学定員及び収容定員

学科名	入学定員	収容定員
国際理工学科（第1学年～第5学年）	35	195 [※]

単位：人

※入学定員は令和 2 年度より 90 名から 45 名へ、令和 5 年度より 45 名から 35 名にそれぞれ変更

1.4 三つの方針について

(1) 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本校は、教育目標を「グローバルイノベーターの育成」とし、学生・理事・教職員に対しては学園共同体が共有する価値に基づく信条である図 1-1「KIT-IDEALS」を常に意識、尊重することを求め、自身及び学園共同体の向上発展を目指しています。また、グローバルイノベーターの素養をしっかりと身につけるため、第 1 学年・第 2 学年は全寮制教育により人間力の陶冶を行い、第 3 学年には 1 年間の海外留学を義務づけています。

本校は、上記理念及び教育方法に共感し、次のような特徴を持つ人を求めています。

- ① しっかりとした基礎学力を持ち、科学技術やデザイン（課題の発見・解決）、イノベーション（新しい価値の創造）に興味を持つ人
- ② グローバル社会での活躍に強い関心と探究心を持ち、英語でのコミュニケーション能力を高めようとする人
- ③ 主体的に社会や地域に貢献する意欲を持ち、且つ行動する人

本校では、一般入試・自己推薦入試以外に、多様な学生を募集するためにグローバル入試を実施します。また、すべての入学試験において、主体性や協調性、高い向上心を持つ学生を選抜するために面接試験を行います。選考にあたっては、各入試区分で定められた試験および出願書類により多面的・総合的に評価します。

「学園共同体が共有する価値」に基づく信条（行動規範）

KIT-IDEALS

この学園に集う私たちは、学園共同体として共有すべき価値を
 “KIT-IDEALS”としてまとめ、これらに基づく信条を定めました。
 これを学生、理事、教職員が常に意識し、尊重することによって学園共同体の向上発展を目指します。

K	Kindness of Heart	思いやりの心 私たちは「素直、感謝、謙虚」の心を持つことに努め、明るく公正な学びの場を実現します。
I	Intellectual Curiosity	知的好奇心 私たちは「情熱、自信、信念」を持つことに努め、精気に満ちた学びの場を実現します。
T	Team Spirit	共同と共創の精神 私たちは「主体性、独創性、柔軟性」を持つことに努め、共同と共創による絶えざる改革を進め、前進します。
I	Integrity	誠 実 私たちは、誠実であることを大切にし、共に学ぶ喜びを実現します。
D	Diligence	勤 勉 私たちは、勤勉であることを大切にし、自らの向上に努力する人を応援します。
E	Energy	活 力 私たちは、活動的であることを大切にし、達成や発見の喜びを実現します。
A	Autonomy	自 律 私たちは、自分の行いを律し、1人ひとりを信頼し、尊敬します。
L	Leadership	リーダーシップ 私たちは、チームワークを大切にし、自分の役割を自覚しつつ、責任を果たします。
S	Self-Realization	自己実現 私たちは、自らが目標を持つことを大切にし、失敗に勝ることなくさらに高い目標に向かって挑戦することに努めます。

令和 3 年 4 月 1 日 学校法人 金沢工業大学



図 1-1 KIT-IDEALS

(2) 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

本校は、グローバルイノベーターの素養をしっかりと身につけさせるために、下記を特色とする C D I O イニシアチブ（Conceive、Design、Implement、Operate）の理念をカリキュラムに織り込み、学生の主体的な体験を重視するカリキュラムを編成します。また、学修成果の評価については、成果物や試験以外に、活動プロセスや協働状況を評価するために LMS（学習管理システム）を活用します。

1) 課題発見・解決力を高める

高専入学時から、Open-ended、即ち決まった答えのない問題について解決策を探るプロジェクトを早い段階でスタートさせる。継続的にデザインシンキングを実践する機会を設けて、課題を発見・定義する経験を繰り返し、幅広い研究成果や調査技術を駆使し、課題の解決へと結びつける力を養っていく。

2) 科学的思考力、コミュニケーション能力を鍛える

他者と協働しながらアカデミックな探究の精神を養うこと、批判的・分析的思考の技術を磨くこと、ディスカッションやディベートを含む効果的なコミュニケーション能力を育成することに努める。

3) よりよい社会づくりに積極的に参画する態度を養う

地域とのふれあいを意識し、地域社会や自然・環境を調査・研究対象としたプロジェクトを行い、地域貢献を通じて社会の一員としての自覚を醸成する。

4) グローバルに活躍できる英語力を培う

特に数学、科学、工学における教育伝達の手段として 1 年から英語を導入し、徐々に増やしていく。3 年以降はほとんどの授業を英語で行う。

5) 異なる文化や、多様な価値観を持つ人々と協働する力を身につける

文学と芸術に触れる機会や、世界の人々と協働する体験を通じ、創造性と、自身や社会並びに世界に対する深い理解を育む。

(3) 卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）

本校は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた実践的・創造的技術者を養成しています。グローバルイノベーターとは、課題を発見する科学的思考力を持ち、最新の工学知識や洞察力を身につけ、創造的な解決策を用いて新しい価値を生み出す人材です。さらに、さまざまな分野の専門家たちと協働し、文化や価値観の多様性を受け入れ、グローバル社会で活躍する力を持ったプロフェSSIONALでもあります。

新しい価値の発見者“イノベーター”は、工学原理、工学実践を幅広く理解していなければなりません。つまり、工学教育改革を目指す国際的組織「C D I O イニシアチブ」の「Conceive、Design、Implement、Operate」というそれぞれの段階を理解し実践する者です。具体的には、次の能力及び行動規範を身につけることを求めています。

I 社会に貢献するリーダーとしての人間力

① 革新への挑戦

信念(高い志・強靱な意志)を持って行動し、失敗に臆することなく粘り強く挑戦し続け、自身やチームを成功へと導くことができる。

② 社会的使命感

地域社会や自然環境に関心を持ち、社会的な課題の解決に使命感を持っている。

③ リーダーとしての高潔

グローバルな環境でリーダーシップを発揮する一方で、謙虚さや他者への尊敬、思いやりを持ち、信頼される人格を備えている。

II グローバルに活躍できるコミュニケーション能力

① コラボレーション

チームで目標を達成するために、自分の役割と提供できる価値を認識し、積極的に貢献する。

② 多様性とアイデンティティ

多様な文化や価値観を持つ人々と協働するための教養を備えつつ、自身の考えを持っている。

③ 心を動かす力

自身の考えを論理的にまとめたうえで、相手の立場や気持ちを考慮しながら効果的に伝えることができる。

III イノベーターに相応しい卓越した科学技術力

① 価値創出

幅広い学問領域の探求とデザイン思考の実践により、これまでにない価値を創出することができる。

② 自然・社会・産業と結びつけた科学的思考

科学技術を自然・社会・産業の面から理解・分析し、自分の考えを述べるができる。

③ 常に学び続ける姿勢

科学・工学の基礎を土台として、常に新しい知識・技術を獲得する姿勢を持っている。

これらの認識の下、本校の教育理念と教育目的に沿って設定された授業科目や教育プログラムを履修し、基準となる単位数を取得していることが卒業の要件です。獲得した知識を知恵（応用力）に転換できる、すなわち「自ら考え行動する技術者」として、学生自らが興味を持って計画的に学習し、考えて行動のできる学生を育成します。

2. 学事運営組織

2.1 学事運営組織と役割

学事運営の組織構成と各委員会等の役割を示します。

本学園のガバナンス・コード（学校法人金沢工業大学ガバナンス・コード）も参照ください。

https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/governance-code.pdf

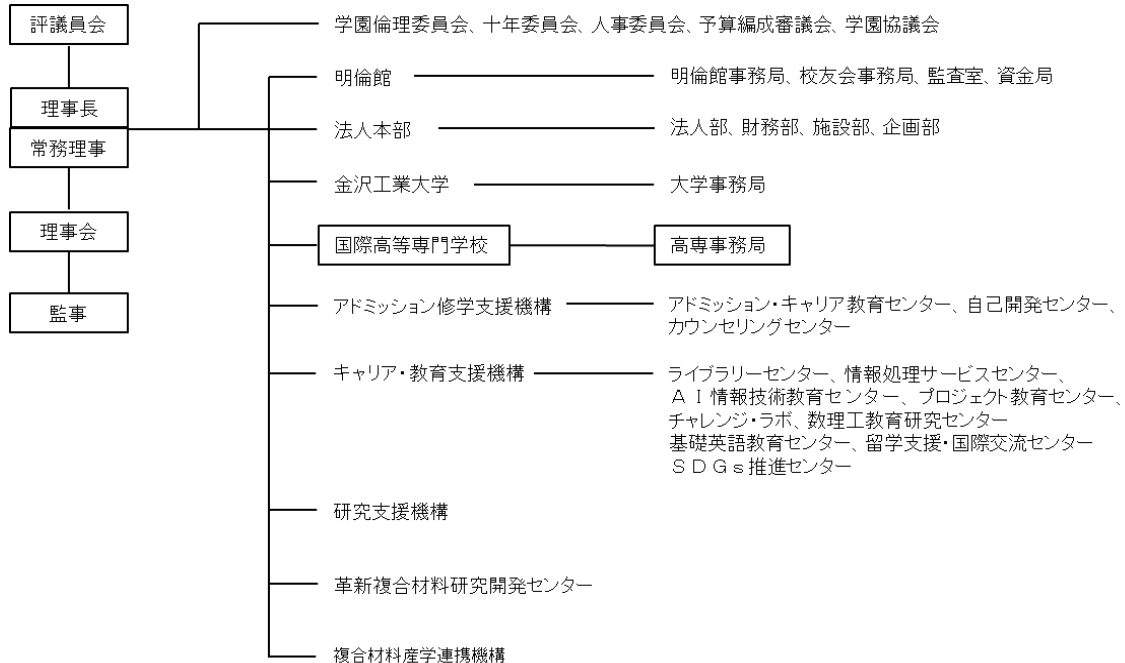


図 2-1 学園組織図

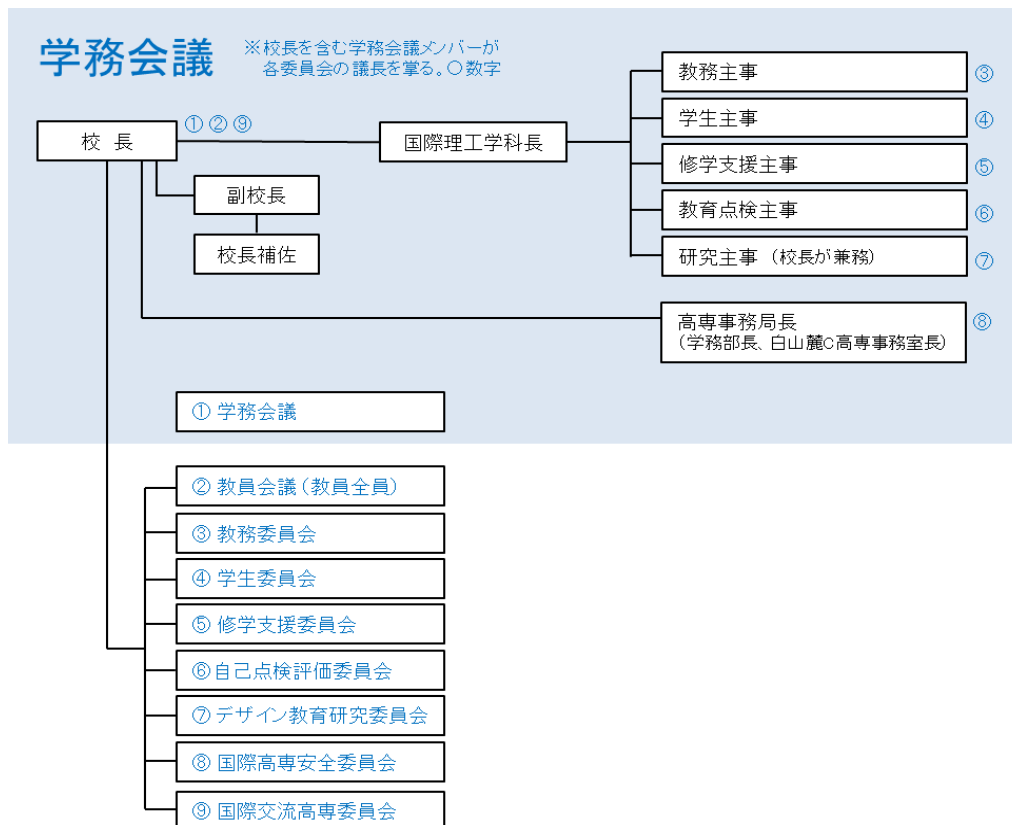


図 2-2 高専組織図

1. 学務会議

校長、副校長、校長補佐、国際理工学科長、教務主事、学生主事、修学支援主事、教育点検主事、研究主事、高専事務局長、学務部長、白山麓高専事務室長により構成され、校長が議長となり、教育研究の質的向上に関する事項、学則その他規則に関する事項、教育課程編成に関する事項、学籍に関する事項、厚生補導に関する事項など、学事全般について審議します。

2. 教務委員会

教務主事が議長となり、教務運営の方針及び教育実施状況の把握に関する事項について審議します。

3. 学生委員会

学生主事が議長となり、学生の厚生補導に関する事項について審議します。

4. 修学支援委員会

修学支援主事が議長となり、修学指導及び進路指導全般に関する事項について審議します。

5. 自己点検評価委員会

教育点検主事が議長となり、教育の実態把握、点検評価及び改善に関する事項について審議します。

6. ICT 教育評価委員会

校長が委員長となり、自己点検評価委員会による評価に対するメタ評価を行い、その結果を十年委員会に報告します。

7. デザイン教育研究委員会

研究主事が委員長となり、エンジニアリングデザイン教育の実施方針、実施計画の立案及び実施状況の把握に関する事項について審議します。

8. 国際交流高専委員会

校長が委員長となり、教育・研究にかかる国際交流プログラムの企画・立案に関する事項について審議します。

2.2 教育支援・学習支援組織と機能

学生の学習や生活支援を行なう組織として、また、教育の充実に向けた支援組織として、各種の支援センターを設けています。各センターの学生支援活動は次のとおりです。

(1) 情報環境支援

情報処理サービスセンター（金沢キャンパス）



情報処理サービスセンターは、コンピュータ、ネットワーク等の IT による教育研究の支援及び IT 関連教育の推進を担っています。本校では、全学生にノートブック型パソコンを支給するなど、IT 教育の充実を図っています。

詳細は、<https://www.kanazawa-it.ac.jp/dpc/>で紹介しています。

(2) 資格取得支援

自己開発センター（金沢キャンパス）



自己開発センターは、資格取得による学生の総合的な能力向上の推進を担っており、各種の資格試験の情報提供をはじめ、資格取得のための講習会も多数開催しています。また、既に資格を取得した学生が、今から資格取得を目指す学生を教える、「学生と学生の学び合いの場」も運営しています。

詳細は、<https://www.kanazawa-it.ac.jp/shikaku/>で紹介しています。

（３）学生生活支援

学生ステーション（金沢キャンパス）



学生ステーションは、学年・学科の異なる学生同士が、共通の話題で対話し、自由な活動を通じて自己成長を行う場です。平日は 21 時、土曜は 17 時までオープンしており、学生主体の交流イベント、講習会の実施を行なっています。

詳細は、<https://www.kanazawa-it.ac.jp/gstation/>で紹介しています。

（４）課外活動支援

夢考房（金沢キャンパス）



学生が自由に「ものづくり」を楽しむ場を提供する夢考房は、平日は 21 時まで、土曜・休日は 17 時まで開館しており、ものづくりのための安全や装置機器の取扱講習会を実施すると共に学生プロジェクトである夢考房プロジェクトを支援しています。

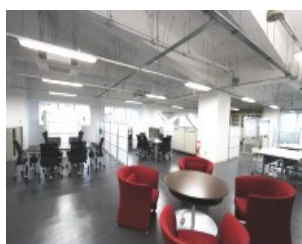
詳細は、<https://www.kanazawa-it.ac.jp/yumekobo/>で紹介しています。

Maker Studio（白山麓キャンパス（上）・金沢キャンパス（下））



Maker Studio は、学生や教職員の自主的な「ものづくり」を支援する設備群の総称であり、Workshop(工作機械室)、Workspace(ものづくりスペース)、Lecture room(レクチャールーム)、Project booth(プロジェクトブース)から構成される制作環境です。学生達が社会実装に向けたプロトタイプをすぐ作成できるよう、レーザーカッターをはじめとした機械や道具が備わっています。

アントレプレナーズラボ（金沢キャンパス）



アントレプレナーズラボは、学生が企業や地域住民とともにイノベーションに向けた「学び」「気づき」「行動」を実践する場として開設されました。学生が学外のさまざまなイノベーターと交流しながら、地域社会のリアルな課題に取り組み、自らイノベーターとして成長していく場として活用が期待されています。

アントレプレナーズラボの館内は <https://kitnet.jp/panorama/07/>でそれぞれ紹介しています。

（５）授業・学習支援

数理工教育研究センター（金沢キャンパス）



数理工教育研究センターは、数学、理科および工学基礎分野の習熟度向上を狙いとして、「教材作成と学習開発の支援」「数理教育研究と調整」等の機能を有しています。特に、数学、理科科目の個別指導に注力することに加えて、Web 教材、習熟度別教材の作成、また、それを用いた課外に実施する理解度向上プログラム、電子メールによるネットチューター等の運営を行っています。

詳細は、<https://www.kanazawa-it.ac.jp/efc/>で紹介しています。

CDIO イノベーション&デザインスタジオ（金沢キャンパス）

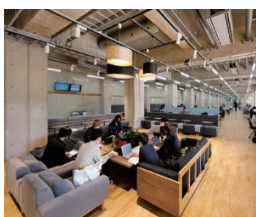
CDIO イノベーション&デザインスタジオは、「グローバル人材の育成」と「イノベーション力の育成」をキーワードに、授業・授業外の予習復習・課外教育プログラムの充実に向けた新しい形の教室環境です。授業期間中は平日 21 時、土曜 17 時まで開館しており、アクティブラーニングや学生間のチームラーニングなどで活用できます。

詳細は、<https://www.kanazawa-it.ac.jp/gstation/index.html> で紹介しています。

Challenge Lab（金沢キャンパス）

Challenge Lab(チャレンジラボ)は、未来の新技术や新たな価値を創造する拠点として開設されました。急速に進展する時代の中、社会性のある研究課題に取り組み、専門分野の枠組みを超えて次代に応じた新しい技術や新しい価値を創出する実践の場です。ここに明るい未来を創るために必要な解決すべき課題に対して、専門分野を超えて学際的なチームをつくり、問題解決の実践とイノベーションに挑戦する「クラスター研究室」が活動しています。

詳細は、<https://www.kanazawa-it.ac.jp/challengelab/index.html> で紹介しています。

**自習室（金沢キャンパス）**

自習には、個人で自習する場合と、複数人もしくはチームで自習する形態があります。本校には個人利用の自習室に加えて、チームでも使用できる自習室として、いつでも課外学習に取り組めるよう、ゆとりの 220 席を有する 365 日 24 時間オープン of 自習室があります。

ライブラリーセンター（LC）（金沢キャンパス）

12 階建てのライブラリーセンター（LC）は、教室や実験室で得た知識をさらに深める場として開館した新しい概念の図書館で、「学習支援」「研究支援」「卒業生支援」「地域の情報センター」としての役割を担っています。利用時間は年間約 340 日、平日は 22 時まで、土曜・日曜は 17 時まで開館しており、学生同士の教えあいの場“Knowledge Square”や就職や授業と連携した文書添削指導の機能を有するライティングセンター、専門基礎学力の増進プログラムを運営する学習支援デスク、マルチメディア技術の修得を目的とした Digital Contents Factory、PMC、五十嵐威暢アーカイブなどを有しています。

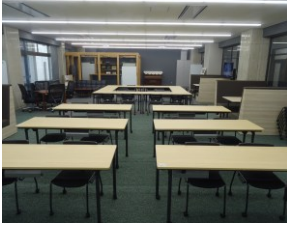
詳細は、<https://www.kanazawa-it.ac.jp/kitlc/>で、

ライブラリーセンターの館内は <https://kitnet.jp/panorama/05/>でそれぞれ紹介しています。

Library Commons（左） / Living Commons（右）（白山麓キャンパス）

第 1 学年、第 2 学年の学生の学習・生活の中心となる空間となっています。金沢キャンパスにあるライブラリーセンターのサテライト図書館としての機能はもちろんのこと、少人数教育、個人学習、グループ学習など様々な目的で使用しています。

Learning Commons（金沢キャンパス）



第4学年および第5学年の学生が、自習、グループ学習、発表準備、ディスカッションなど、さまざまな学習スタイルに対応できるよう設計されています。また、空き時間や放課後には、学生をはじめとする学生主体の活動の場としても活用でき、学生がより充実した時間を過ごせる環境が整えられています。

（6）教育研究・研修施設

天池自然学苑



天池自然学苑は、本校金沢キャンパスから車でおよそ25分、本校白山麓キャンパスから車でおよそ1時間かかります。金沢市南東部の広大な丘陵地に位置し、体育館、サッカー場、ラグビー場、野球場、ゴルフ練習場などがあります。

池の平セミナーハウス



池の平セミナーハウスは、本校金沢キャンパスから車でおよそ3時間、本校白山麓キャンパスから車でおよそ4時間かかります。上信越高原国立公園の一部、新潟県の妙高高原にある収容人数60名の施設です。

KIT 国際交流会館



KIT 国際交流会館は、留学生と併設校である金沢工業大学および本校の学生が活発に交流する「文化を超えた共創教育」の拠点です。また、最大50名の留学生が滞在可能な住居エリアも備えています。留学生との交流を通じて、キャンパスにいながら、異文化への理解と日本文化への再認識を深め、グローバル社会で活躍するうえで欠かせない素養を身につけることを目指したプログラムを展開しています。

◆健康・体育施設は6章 6.3 健康・体育施設で紹介します。

3. 教員

3.1 教員の構成

本校の基幹教員の人数の推移を図3-1に示します。

なお、令和7年度の基幹教員は30名、金沢工業大学に所属し本校の学生の授業を担当する兼任講師が12名、非常勤講師は2名となっています。

※令和2年度から令和6年度まで専任教員数、令和7年度より基幹教員数を表示しています。

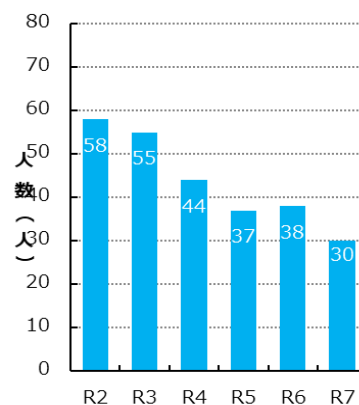


図3-1 基幹教員の人数

3.2 基幹教員

(1) 所属別基幹教員数

令和7年度の所属別の基幹教員数を表3-1に示します。30名の基幹教員が所属し、一人当たりの学生数は約2.6名となっています。また、年齢構成は20歳代3名、30歳代7名、40歳代9名、50歳代9名、60歳代2名です。

表3-1 所属別基幹教員数

所 属	教授	准教授	講師	助教	助手	計
国 際 理 工 学 科	6	3 (3)	6 (5) <1>	-	-	15 (8) <1>
一 般 科 目	6 (2) <2>	1	6 (4) <4>	2 (2) <1>	-	15 (8) <7>
基 幹 教 員 合 計	12 (2) <2>	4 (3)	12 (9) <5>	2 (2) <1>	-	30 (16) <8>
兼任講師合計 (全教員に対する割合)						12 (40.0%) <2>
非常勤講師合計 (全教員に対する割合)						2 (6.6%) (1) <1>

単位：人、() は外国人教員数、< > は女性教員数

(2) 基幹の外国人教員数

基幹の外国人教員数の推移を図3-2に示します。

令和7年度は基幹教員30名の内16名が外国人教員となっております。内訳は、国際理工学科が8名、一般科目が8名です。

兼任講師に外国人教員はおりません。非常勤講師2名のうち1名が外国人教員です。

※令和2年度から令和6年度まで専任教員数、令和7年度より基幹教員数を表示しています。

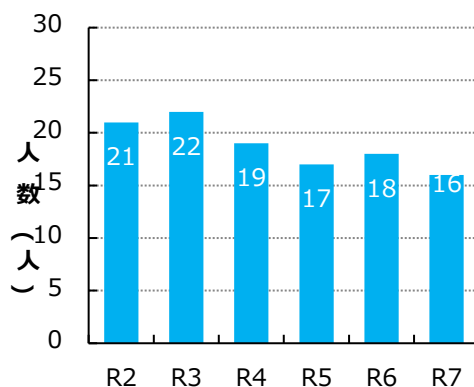


図3-2 基幹の外国人教員数

本校常勤教員のプロフィールのほか、保有学位を含む研究業績は、
<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/staff/>で紹介しています。

4. 志願者・在学者・卒業者の状況

4.1 志願者・入学者の状況

令和7年度の入学志願者状況、入学者状況を表4-1に示します。令和6年度編入学入試及び令和7年度社会人入試を実施していません。過去の入学者数は、令和3年度が9名、令和4年度が17名、令和5年度22名、令和6年度が13名でした。

令和7年度入学者24名の県別の内訳については、石川県3名、北海道1名、茨城県1名、埼玉県1名、東京都4名、神奈川県1名、山梨県1名、長野県1名、静岡県2名、三重県1名、大阪府2名、兵庫県1名、岡山県1名、鹿児島県1名となっております。また、海外（インドネシア1名、ノルウェー1名、ドイツ1名）からも入学生がおります。

表4-1 令和7年度入学試験結果

学 科	国際理工学科				
区 分	入学定員※	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
グローバル入 試	35	11 (2)	11 (2)	10 (1)	9 (1)
一 般 入 試		6 (0)	6 (0)	4 (0)	2 (0)
自己推薦入 試		17 (1)	16 (1)	14 (1)	13 (1)
合 計		34 (3)	33 (3)	28 (2)	24 (2)

単位：人、()は女子数

※入学定員を令和5年度より45名から35名に変更。

4.2 在学者の状況

令和7年度の在学者数(令和7年5月1日現在)を表4-2に示します。留学生が3名在学しています。また、令和7年度の収容定員充足率は44%です。なお、令和6年度の退学者数は4名で、同年5月1日時点の在学者数66名で除した中退率は6%でした。留年者数は0名でした。

表4-2 在学者数

学 科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	合計
国 際 理 工 学 科	24 (2)	11 (3)	20 (6)	16 (0)	6 (1)	77 (12)
合 計	24 (2)	11 (3)	20 (6)	16 (0)	6 (1)	77 (12)

単位：人、()は女子数

4.3 進路状況

令和6年度の進路状況を表4-3に示します。なお、卒業生には準学士（工学）の称号が与られます。

令和7年3月31日時点での卒業生総数は、6,556（昨年度6,547）人です。

卒業生の進路の詳細は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/after-graduation/>で紹介しています。

表4-3 進路状況（令和7年3月卒業生）

学 科	卒業者数 (人)	進学者数 (人)	就職希望者数 (人)	就職者数 (人)	就職率 (%)	自営・その他 (人)
国 際 理 工 学 科	9 (2)	9 (2)	-	-	-	-
合 計	9 (2)	9 (2)	-	-	-	-

単位：人、()は女子数

5. 授業

5.1 本校教育の特色

(1) グローバルイノベーターを目指す「5 + 4」の KIT/ICT スクールシステム

グローバルイノベーターとは、決まった答えのない課題にチャレンジし、言葉や文化、専門分野を超えて、さまざまな人々と協力しながら、新しい価値を生み出していく人々のことです。本校は金沢工業大学と連携しながら、国連に加盟する世界193カ国が同意したSDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）の17の目標を念頭におき、地域の課題や地球規模の課題解決に貢献できる人材を育成します。

詳細は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/education/system/>で紹介しています。

KIT | ICT

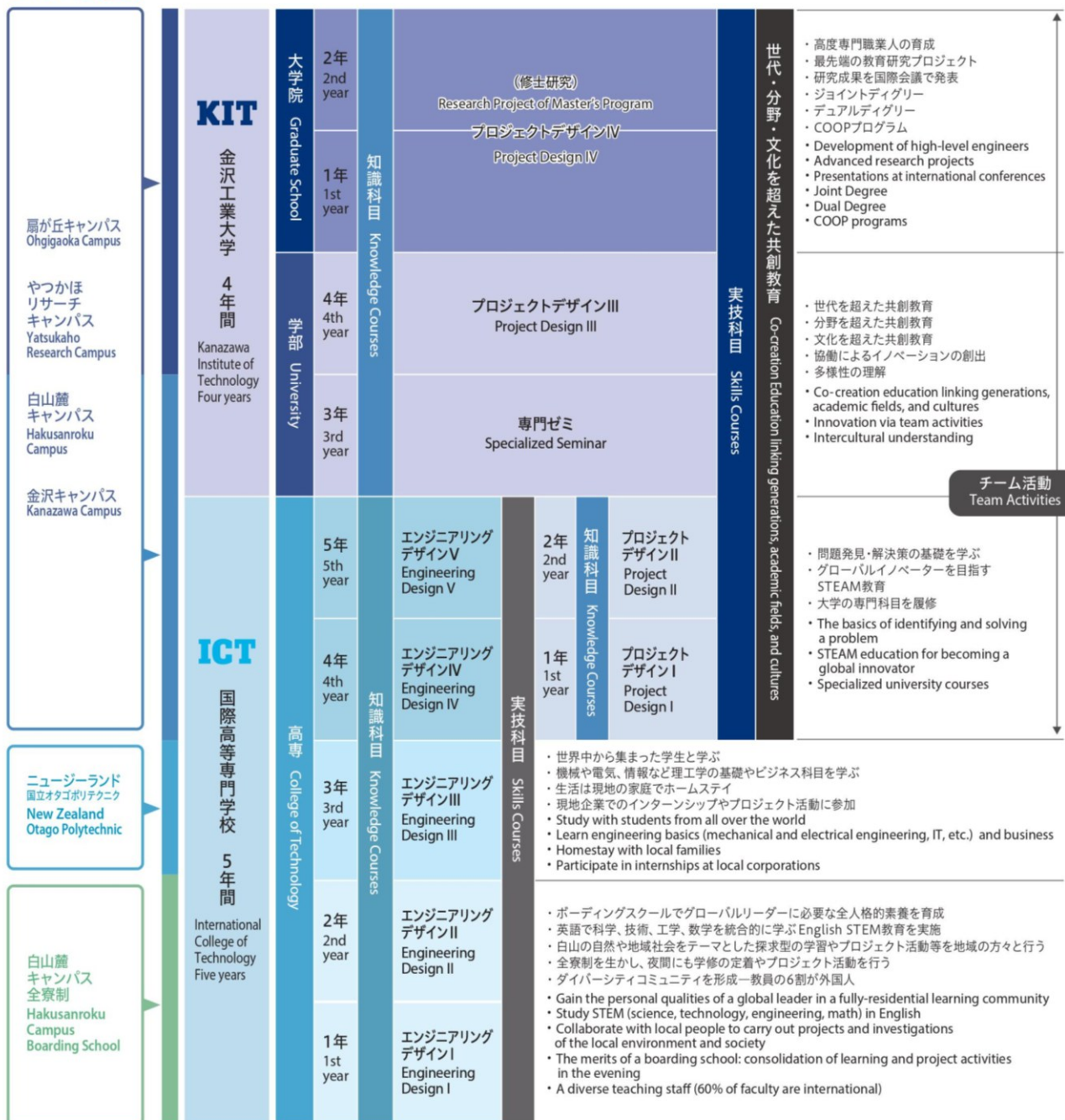


図 5 - 1 KIT/ICT スクールシステム

(2) エンジニアリングデザイン教育

国際理工学科では、積み上げた知識をもとに課題解決をするだけでなく、様々な価値観の中で新たな価値の創出を目指す「エンジニアリングデザイン教育」を支柱としています。ユーザーの行動や気持ちを感じとり、そこから新しいサービスやモノを生み出す「デザインシンキング」を用いて、これまでの常識にとらわれない思考を育み、イノベーションの創出に挑みます。本校ではカリキュラムに、世界標準の工学教育CDIOを導入しています。CDIOは、Conceive（考える）、Design（設計する）、Implement（実行する）、Operate（運用する）の頭文字で、「工学の基盤知識となるサイエンス」と「実践・スキル」のバランスを重視し、質の高い工学教育を実現します。

詳細は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/ja/education/department/>で紹介しています。

(3) STEAM 教育

国際理工学科では、研究開発の基礎となる科学、技術、工学、数学を英語で統合的に学ぶ STEAM 教育を実施し、学生は理工学的思考力を身につけます。現在では、上記に芸術を加えた「STEAM 教育※」が注目されています。

第 1 学年は主に外国人教員と日本人教員のチームティーチングで授業が行われます。第 1 学年に開講される授業「ブリッジングリッシュ」は、英語で行われる理工学系の授業での専門的な用語や言い回しを事前に学習させることにより、STEAM 教育に対する学生達の理解を高めています。

第 1 学年、第 2 学年に開講される「パフォーミングアーツ」や「ビジュアルアーツ」では、多様化するグローバル社会で生き抜くための教養として、芸術や文化は幅広い視野でものごとを捉えるための感性や洞察力を磨き、豊かな想像力や表現力を養います。

第 4 学年、第 5 学年では、金沢工業大学と連携したより高いレベルでの「STEAM 教育※」に取り組みます。

※STEAM 教育：2000 年代に米国で始まった科学技術の新しい教育モデル「STEM 教育(S=Science（科学）、T=Technology（技術）、E=Engineering（工学）、M=Mathematics（数学）」に、A=Art（芸術）を加えた教育モデル。

(4) 英語教育と海外協力提携校との交流プログラム

英語教育に力を入れている本校において、学生達は普段の学校生活で外国人教員と触れ合うほか、海外協力提携校との交流プログラムにより、英語を学ぶ喜びを得ることができます。

① 第 2 学年 海外英語研修（希望者のみ）

本校の学生が海外での授業や活動に参加することで、生活全ての場面で使える実践的な英語力をアップさせると共に、現地の人々や他の国からの留学生との交流を通じてお互いの価値観と向き合い、グローバルな考え方やコミュニケーション力を養うことを目的としています。世界 50 都市に語学学校を展開する EF（Education First）を通じての研修になり、洗練された学習カリキュラムやテキストを基に、アウトプットを中心にした授業やアクティビティを通じて自己表現することで、生きた英語を身に付けることに繋がります。また、本プログラムを経験することにより、第 3 学年のニュージーランド留学参加への意識をより一層高めることが期待されます。

●渡航先・期間 本校が指定する 8 校（ニューヨーク・ボストン・シアトル・サンディエゴ・バンクーバー・アイランド・ロンドン・ケンブリッジ・ブリストル）から選択ができ、渡航期間も 3 週間または 4 週間、滞在形態もホームステイあるいは寮のいずれかで、自分に合わせた環境に身を置くことが可能となります。

●単位認定 第 1 学年の授業科目の単位に未修得がなく、本校を通じて研修に参加し所定のプログラムを修了（受講した全科目の平均出席率が 80%以上であること）すると、第 2 学年の「海外英語研修」（2 単位）が認定されます。

② 第 3 学年全員 1 年間 ニュージーランド留学 オタゴポリテクニク

オタゴポリテクニクはニュージーランドの南島南東部に位置し、美しい街並みで知られるダニーデンに Central Otago campus を有します。3 年生は現地でホームステイをしながら英語と共に専門科目を学びます。

●オタゴポリテクニクでの学びの概要

オタゴポリテクニクでは、ニュージーランドでの生活や現地授業に必要な英語スキルを学ぶ「Functional English」、技術英語を学ぶ「Engineering English Communication」、3DCADや電気工作、数理、レゴプロジェクトに取り組む「Introduction to Engineering Practice」のほか、「Engineering Project」も現地で行われます。専門科目としては「Engineering Mathematics」を全員が履修し、その他「Platforms and Devices for Engineering」「Programming for Engineers」「Engineering Mechanics」などから2科目を選択して受講します。これらの専門科目は、現地の授業クラスに入り現地の学生や他の留学生と共に修学する魅力的なプログラムとなっています。

●オタゴポリテクニク1年間留学に必要な英語力

2年生修了までに達成するスコアとして、海外の大学進学レベルとされるIELTS5.5を目標とします。IELTS（アイエルツ）は、主にイギリスやオーストラリア、ニュージーランドへの留学や移住に使われる英語熟練度を測る英語検定で、学内で年に1回、全員が受験する機会を設けています。テスト1回目で5.5以上のスコアを出す学生もいれば、4～4.5の学生もあり、習熟度はさまざまです。しかし、授業や課外でのサポートを受け、2回目はほぼ全員がスコアを伸ばしています。

●単位の認定

オタゴポリテクニク留学中に、本校の授業科目2科目と共に修得した単位により、本校の第3学年修了に必要な単位が認定されます。

5.2 主要科目の特長や目標等

(1) エンジニアリングデザインⅠ～Ⅴ

国際理工学科では、「エンジニアリングデザイン」を柱として位置づけます。エンジニアリングデザインⅠ～Ⅱは、デザインシンキングをベースに持続可能な社会をテーマに新たな価値創生を目指すプロジェクト型の活動にチームで取り組みます。ユーザーへの共感を高めながら課題を見定め、課題解決のためのアイデアをカタチにしていきます。エンジニアリングデザインⅢは、技術的、工学的知識を総合的に理解します。自分たちが選んだ分野で、教員や学生たちと協議を重ねながら設計概要をまとめ、それに沿った製作活動、システム作成を行います。製作目的や製作過程の説明文書を作成するとともに、プロトタイプ、コンピューターモデル、コンピューターシステム制作を行います。さまざまなプレゼンテーション技術を用い、プロジェクトの成果を学生、教員または企業の方々に英語で発表を行います。エンジニアリングデザインⅣでは、地域社会や産業分野への理解を深めながら、異なった専門分野のエンジニアと基礎的な工学知識や技能を発揮した協働作業を行い、より幅広い視野をもって何が社会に必要なかを捉え解決策を提案します。エンジニアリングデザインⅤでは、実社会の問題を取り上げ、使命感をもって学生が主体的・自主的に、計画立案、調査、分析、実験、考察、発表を通じて、問題発見から解決にあたる過程と方法を実践しながら学び、その成果は作品や論文として発表します。

(2) インターンシップ

第4学年はインターンシップⅠ、第5学年はインターンシップⅡ（選択科目）が実施されます。インターンシップⅠ・Ⅱでは、学生自身が選択した研究分野と将来のキャリアに関連する経験を積むことによって知識を向上させ、社会に貢献できる人間になるために必要な自律性、責任感、態度を養います。それまで学習した知識や技術を社会の場において活用することによって、学生自身がそれまでの学習を自己点検すると共に、残りの学生生活において、何を目標に学習するのかを「自ら考える」ことを大切にしており、新たな学習計画を立てる上で重要な位置づけとなっています。

(3) コーオブプロジェクト

第5学年の情報フロンティアコース後学期に選択科目として履修が可能な「コーオブプロジェクト」は、海外の企業で約5ヵ月間（後学期：9月～1月末の約5ヵ月間）の就業体験を行います。本プログラムでは、単なる就業体験には留まらず、給料も支払われることから、企業の一社員として仕事が割り振られ、限られた期間内に一定の成果を挙げることが求められます。学生は、企業の一員として、社会人としての素養を身に付けるだけでなく、多国籍の環境の中で、よりグローバル

な視点から物事を考える力を養い、グローバルイノベーターとして必要なコミュニケーション能力の向上を図ることができます。

●渡航先

提携しているスラナリー工科大学を介してタイ王国の企業での研修を実施します。企業での研修の前に、スラナリー工科大学での事前研修も用意されており、現地での研修のスムーズな遂行をサポートしてくれます。

●選考と単位認定

参加には成績、英語力、就業意欲などを基準とした学内の選考を通過するとともに、第5学年前学期までに「コーオプロジェクト」を除く卒業に必要な単位を修得する必要があります。また、現地受け入れ企業とのマッチングがうまくいかない場合は研修が実施できません。全ての研修を終え、最終のプレゼンテーションを経て、所定の評価を得ると「コーオプロジェクト」（8単位）が認定されます。

この他にも、科目ではありませんが、本校ではキャリアデザイン教育を実施しています。

人間には、自分が持つ能力が生かされ、価値観や態度を素直に表現でき、自分が納得できる役割を引き受けさせてくれるような環境を求める欲求があります。節目々々でしっかり意思決定を行わなければ、単に状況に自分を合わせることになり心からの成功を得ることができません。本校では、自分を一番生かせる道へ進むため、特別活動の時間を利用しキャリアデザインを行なっています。「ものづくり教育」はまた“自分づくり教育”でもあり、キャリア（専門能力、人間力の醸成）の発達が促進されます。キャリアデザインにより自己理解を深め、自身で意思決定を行ない、自己実現に向けて主体的に行なう姿勢を身につけていきます。つまり、自立／自律型の人材を育成するプログラムです。

5.3 各学科で修得する知識・能力

国際理工学科では、経済・産業のグローバル化、少子高齢化と労働人口の減少、自然災害、環境問題など、複雑かつ多様な課題により先行き不明な現代社会に伴い、課題解決に向けたイノベーションが期待され、変化に対応するのみならず、第四次産業革命における成長分野（AI、IoT・ロボティクス、ビッグデータ、セキュリティ分野など）を牽引することで持続可能な未来社会の創造へとつなげる、理工系人材の育成を目標とします。理工系リベラルアーツ教育と世界標準の工学教育 CDIO に基づくカリキュラムに基づき、グローバルイノベーターの育成を目指します。

5.4 学習支援計画書（シラバス）

授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画は、教育課程表及び学習支援計画書（シラバス）に明記しています。授業科目は、一般科目と専門科目に分かれており、それぞれに必修科目と選択科目があります。

カリキュラム（教育課程表）は、次のホームページで紹介しています。

《令和4年度以前入学生適用》（P.28～）

[20250401_School_Handbook2025beforeR4.pdf](https://www.ict-kanazawa.ac.jp/ja/students/curriculum/20250401_School_Handbook2025beforeR4.pdf)

《令和5年度以降入学生適用》（P.28～）

[20250401_School_Handbook2025afterR5.pdf](https://www.ict-kanazawa.ac.jp/ja/students/curriculum/20250401_School_Handbook2025afterR5.pdf)

学習支援計画書（シラバス）には、①科目の基本情報、②科目概要、③教科書及び参考書情報、④授業方法、⑤評価基準（評価項目、評価方法）、⑥学生の到達目標または行動目標、⑦各回の授業内容（1年間の授業計画）と学習課題、⑧補足情報（受講上の注意、オフィスアワー）が明示されています。

学習支援計画書（シラバス）は、科目担当者が初回の授業にて学生に配付し説明しています。

令和7年度の学習支援計画書（シラバス）については、次のホームページで紹介しています。

<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/ja/students/curriculum/>

5.5 単位認定と成績評価

学業成績の評価は、試験の成績、平素の学習状況及び出席状況を総合し、学習支援計画書（シラバス）の評価基準に従って行います。学業成績は、各学期末に科目ごとに、それぞれの科目の担当教員が、授業時間数の3分の2以上出席している者について、その科目を履修したものと認め評価します。そして学年末成績の評価が100点を満点とする評点により、60点以上の科目について、その科目の単位を修得したものと認定します。この評価は表5-1に示す区分により評定され、指導要録、及び成績証明書などに記載されます。単位追認試験を受けて修得した科目の評価は60点とします。なお、正当な理由なく定期試験を受けなかった場合、または懲戒処分のため試験を受けることができなかった場合には、当該の試験の成績を0点とします。

表5-1 総合評価点数と評定（全学年）

評点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	0
評定	S (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	D (成績不良)	F (出席不良)
GPA	4	3	2	1	0	0

個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における1単位当たりの成績評価の平均値を示すGPA(Grade Point Average)を活用しています。これにより、全体的な成績評価として各学期終了時点での成績状況を確認できます。また、GPAによる成績評価は、今後の修学指導における基礎資料となるばかりではなく、就職指導や大学への進学指導（大学への編入学推薦出願資格）における基礎資料としています。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{評価ポイント} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

※小数点以下3桁目を四捨五入し、小数点以下2桁までとします

「令和5年度以降入学生適用」

各学年における開講科目数と開講単位数は、表5-3から5-5に記載のとおりです。

表5-3 第1学年（「教育課程表」令和5年度以降入学生適用）

		開講科目数	開講単位数
必修	一般	11	18
	専門	6	8
選択	一般	21	27
	専門	0	0
合計		38	53

表5-4 第2学年（「教育課程表」令和5年度以降入学生適用）

		開講科目数	開講単位数
必修	一般	10	16
	専門	10	12
選択	一般	20	23
	専門	0	0
合計		40	51

表 5-5 第3学年（「教育課程表」令和5年度以前入学生適用）

		開講科目数	開講単位数
必修	一般	5	12
	専門	3	15
選択	一般	0	0
	専門	5	10
合計		13	37

「令和4年度以前入学生適用」

各学年における開講科目数と開講単位数は、表5-6から5-13に記載のとおりです。

表 5-6 第4学年（「教育課程表」令和4年度以前入学生適用）

		電気電子コース	
		開講科目数	開講単位数
必修	一般	5	6
	専門	12	31
選択	一般	4	7
	専門	5	7
合計		26	51

表 5-7 第4学年（「教育課程表」令和4年度以前入学生適用）

		機械工学コース	
		開講科目数	開講単位数
必修	一般	5	6
	専門	10	23
選択	一般	4	7
	専門	9	16
合計		28	52

表 5-8 第4学年（「教育課程表」令和4年度以前入学生適用）

		情報フロンティアコース	
		開講科目数	開講単位数
必修	一般	5	6
	専門	14	31
選択	一般	4	7
	専門	7	12
合計		30	56

表5-9 第4学年（「教育課程表」令和4年度以前入学生適用）

		応用化学コース	
		開講科目数	開講単位数
必修	一般	5	6
	専門	15	33
選択	一般	4	7
	専門	3	4
合計		27	50

表5-10 第5学年（「教育課程表」令和4年度以前入学生適用）

		電気電子コース	
		開講科目数	開講単位数
必修	一般	2	2
	専門	10	22
選択	一般	1	2
	専門	7	13
合計		20	39

表5-11 第5学年（「教育課程表」令和4年度以前入学生適用）

		機械工学コース	
		開講科目数	開講単位数
必修	一般	2	2
	専門	9	18
選択	一般	1	2
	専門	8	15
合計		20	37

表5-12 第5学年（「教育課程表」令和4年度以前入学生適用）

		情報フロンティアコース	
		開講科目数	開講単位数
必修	一般	2	2
	専門	7	20
選択	一般	1	2
	専門	8	15
合計		18	39

表 5-13 第 5 学年（「教育課程表」令和 4 年度以前入学生適用）

		応用化学コース	
		開講科目数	開講単位数
必修	一般	2	2
	専門	9	20
選択	一般	1	2
	専門	7	13
合計		19	37

5.6 進級要件及び卒業要件

進級や卒業の基準は、国際高等専門学校学則第 12 条に規定し、必要な学力（取得単位数）と人間性（「特別活動」の教育成果）を備えた学生について、規定に基づき進級や卒業を認定しています。進級や卒業の判定に当たっては、定量的な判定資料に加え、教務委員会、全教員による教員会議での予備判定を経て、校長、副校長、校長補佐、国際理工学科長、教務主事、学生主事、修学支援主事、教育点検主事、研究主事、高専事務局長、白山麓高専事務室長、学務部長からなる学務会議にて総合的に判定しています。

進級又は卒業の要件

次の条件を満たしている者については、進級又は卒業が認められ、当該学年を修了することができます。

- （１）進級又は卒業の要件となるすべての授業科目の単位が認定されていること。
- （２）卒業までに特別活動に 90 単位時間以上参加していること。
- （３）第 1 学年及び第 2 学年は、当該学年における欠席日数が、出席すべき日数の 3 分の 1 未満であること。

進級の特例

進級要件の（１）のみを満たすことができなかった者のうち、次の条件のすべてを満たす者に限り、進級が認められ、当該学年を修了することができます。

- （１）第 1 学年から第 4 学年にあつては、入学年度に即して表 5-16 若しくは表 5-17 の当該学年修了に必須となる授業科目の単位が認定されていること。
- （２）第 1 学年から第 4 学年にあつては、修得単位数が、入学年度に即して表 5-18 若しくは表 5-19 の進級に必須となる単位数を満たしていること。
- （３）第 4 学年にあつては、第 1 学年から第 3 学年までの必修科目の単位が全て認定されていること。
- （４）令和 5 年度以降入学生においては、前年度までに修得すべき授業科目の単位が、学務会議の議を経て決定された年度内の所定の期限までにすべて認定されていること。ただし、第 3 学年で留学中の場合は、期限が年度をまたぐことを妨げないものとする。

在学制限

同一学年に 2 年を超えて在学することはできません。ただし、休学による場合は、この限りではありません。

表 5-16 当該学年修了に必須となる授業科目（平成 30 年度から令和 4 年度入学生適用）

学科	科目	
	第 1 学年	第 2 学年
国際理工学科	エンジニアリングデザイン I A 及び I B	エンジニアリングデザイン II A 及び II B

表 5-17 当該学年修了に必須となる授業科目（令和 5 年度以降入学生適用）

学科	科目			
	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
国際理工学科	エンジニアリング デザイン I A 及び I B	エンジニアリング デザイン II A 及び II B	エンジニアリング デザインⅢ 生活と文化 I 及び II	エンジニアリング デザイン IV A 及び IV B

表 5-18 進級又は卒業に必須となる累積単位数（令和 2 年度から令和 4 年度入学生適用）

学科 \ 学年	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	第 5 学年
国際理工学科	26 (38)	74 (76)	96 (104)	135 (143※)	167 (167)

注 1) 下段 () は修得最低単位数

注 2) 累積単位数には「海外英語研修」及び「課題学修」の単位数を含めない

注 3) 2 学年にあつては、1、2 学年の卒業の要件となる授業科目 76 単位の内、2 学年の必修科目 2 単位分を除く 74 単位が認定されていること。※標準となる修得単位数を表示

表 5-19 進級又は卒業に必須となる各学年の単位数（令和 5 年度以降入学生適用）

学科 \ 学年	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	第 5 学年
国際理工学科	32 (38) (38)	36 (38) (76)	23 (27) (103)	32 (40) (143)	24 (24) (167)

注 1) 中段 () は卒業に必要な当該学年の修得最低単位数

注 2) 下段 () は当該学年までの卒業に必要な修得最低単位数の累計

5.7 自己点検・評価について

本校では、自己点検・評価において、学生は学習支援計画書（シラバス）に基づいて自ら学習計画を立て、実際の授業および学習に取り組みます。また、自ら学んだ学習内容や到達度を各科目の成績や修学状況から確認します。さらに、科目ごとの授業アンケートや年度末に行われる総合アンケートに回答することで、授業への取り組みの積極性や、成果、課外における活動の充実度を自己点検・評価することができます。このようにして学生は PDCA サイクルを回すことで自身の自己点検・評価を行います。各教員は回答された授業アンケートや校長による面談でのフィードバックをもとに教育改善に取り組みます。ティーチング・ポートフォリオ（成果・評価）を作成することで、その年度での取り組みの実績とその評価および反省を記録し、授業運営の観点からティーチング・ポートフォリオ（方針・目標）に次年度に向けた目標設定と改善を記載し、校長に提出します。この様に教員は PDCA サイクルを回すことで、授業および課外活動等の自己点検・評価を行います。本校の全体的な学事運営を行う組織として学務会議を中心に、教育、学生生活、修学・就職、教育研究の観点から「教務委員会」、「学生委員会」、「修学支援委員会」、「デザイン教育研究委員会」などが設置されています。各委員会は年間活動計画を作成し、それに基づき各委員会活動を実施します。年度末には改善点・気付きの報告をもとに学務会議と協議のうえ、来年度のアクションプランを策定します。この様に委員会は PDCA サイクルを回すことで、学事運営の自己点検・評価を行います。多くの教員が教育活動の点検と学事運営に携わることで、各教員が行った教育実践や学事運営における自己点検の内容が、本校全体の改善活動の中で活かされる仕組みとなっています。さらに、「自己点検評価委員会」を設け、本校の学事運営に関する取り組みを点検、評価すると共に、ICT 教育評価委員会を通して本校外部からの意見を取り入れるよう努めると同時に、学園理事会の諮問機関で第三者評価を行う「十年委員会」へ、教育・研究活動における取り組みの状況や計画などを報告しています。これらは学務会議が総括し、継続的な自己点検・評価を行なっています。

この様に、本校の自己点検・評価の仕組みは、学生、教職員、委員会の個々の自己点検が組織的な取り組みへと展開される仕組みを有しており、これらを学務会議が統括しています。学生、教職員それぞれが学園の理念や本校の教育実践目標を理解し、さらに行動規範（KIT-IDEALS）に沿って、それぞれが行動することで「工学アカデミア」の実現を目指しています。

自己点検・評価要領

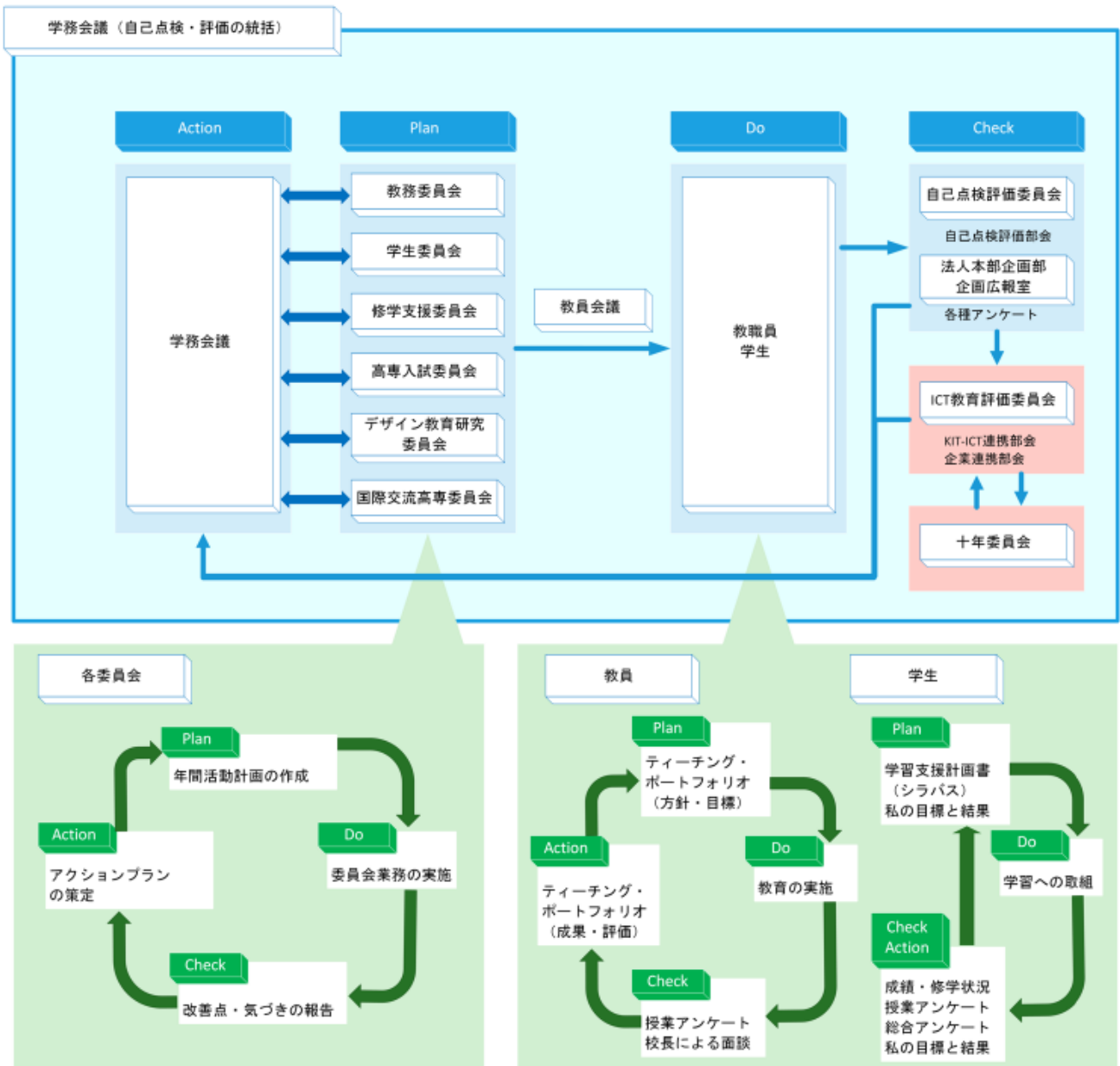


図5-2 自己点検評価概念図

本校で開講している全ての授業科目で学生による授業アンケートを実施しています。

詳細は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/evaluation/fdequete/>で紹介しています。

6. キャンパス構成

6.1 キャンパスの所在地と構成・概要・交通手段

本校は、金沢キャンパスおよび白山麓キャンパスの2つのキャンパスを持ち、他に天池自然学苑と池の平セミナーハウスを設けています。各々のキャンパスの所在地と校舎面積を表6-1に示します。



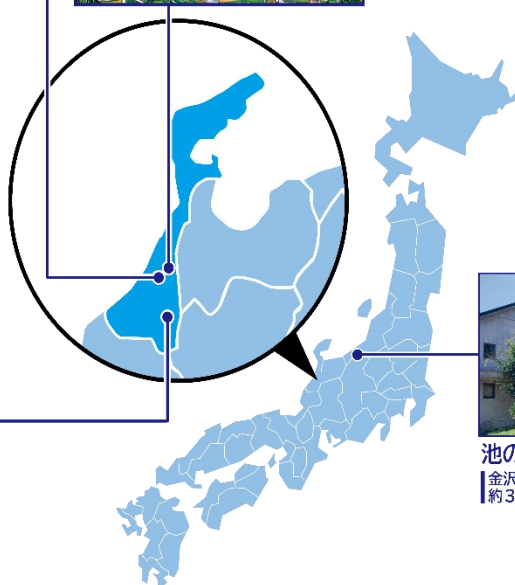
金沢キャンパス
金沢駅より
約20分（車利用）



天池自然学苑
金沢キャンパスより 約10km
約25分（車利用）



白山麓キャンパス
金沢キャンパスより 約45分
金沢駅より 約1時間
小松空港より 約45分（共に車利用）



池の平セミナーハウス
金沢キャンパスより 約220km
約3時間（車利用）

表6-1 キャンパスの所在地等

校地名	所在地	校地面積	校舎面積
金沢キャンパス	石川県金沢市久安2丁目270番地	181,862※㎡	3,935 ㎡
国際高専校舎クラブハウス	石川県金沢市久安2丁目270番地	11,602 ㎡	348 ㎡
白山麓キャンパス	石川県白山市瀬戸辰3番地1	67,270 ㎡	10,630 ㎡
天池自然学苑	石川県金沢市天池3番地	205,805 ㎡	5,347 ㎡
池の平セミナーハウス	新潟県妙高市池の平2275番地5	5,682 ㎡	2,866 ㎡

※金沢工業大学扇が丘キャンパス含む

6.2 校舎の耐震化率

本学園校舎の耐震化率を下記に示します。

本学園校舎の耐震化率 98.6%（令和7年4月1日現在）

※日本私立学校振興・共済事業「私立学校校舎等実態調査」に基づき算出しています。

6.3 健康・体育施設

扇が丘診療所（金沢キャンパス）



専任の医員が在籍する内科の診療所を設置しています。体調を崩したり、風邪をひいたり、おなかの調子が悪いときなど、学内で気軽に診断が受けられ、薬の提供も行なっています。また、症状によっては他の病院への紹介も行っています。

詳細は、<https://www.kanazawa-it.ac.jp/shisetsu/kenko/clinic.html> で紹介しています。

保健室（白山麓キャンパス）



KIT Innovation Hub の1階にあります。看護師は平日7:00～18:30、土曜8:30～13:00 にそれぞれ在室しており、学生や教職員の健康面をサポートしています。

体育館・スポーツ考房（トレーニングルーム）（金沢キャンパス）



体育館の中に多種多様なトレーニングマシンが完備されているスポーツ考房（トレーニングルーム）があり、専門スタッフのアドバイスを受けながら無理なく健康増進、体力向上を目指すことができます。平日は20時まで、土曜は16時まで利用可能です。

詳細は、<https://www.kanazawa-it.ac.jp/shisetsu/kenko/training.html> で紹介しています。

体育館・Training Gym（白山麓キャンパス）



白山麓キャンパスにある体育館は明るく広々とした空間となっており、体育の授業や入学式などのセレモニーに利用されています。館内は、卓球やバドミントン、バスケットコート、バレーボール、フットサルができる環境が整っています。体育館の2階には Training Gym があり、学生たちは体育の授業や放課後において、日々の体力作りに励んでいます。

カウンセリングセンター（金沢キャンパス）

一般的に高専生は、思春期という人生で最も大きな心理的課題に直面する時期にいるという観点に加えて、対人関係の悩みや修学上の問題等、様々な場面で悩み、立ち止まることもあります。同時に、自分が何者で、どう生きていくかを自分自身に問いかけ、大人としての心の成長を遂げる時期でもあります。このような背景の下、学生のメンタルヘルスに関する相談、アドバイスを目的に臨床心理士が常勤のカウンセラーとして無料で対応します。

カウンセリングセンター高専分室（白山麓キャンパス）

保健室に隣接しており、KIT カウンセリングセンターからカウンセラーが来ています。また、第1学年全員と第2学年の希望者を対象に「ポジティブサイコロジー」を実施し、学生達のこころの成長を手助けしています。

学生食堂 LA TERRA（ラテラ）・IL SOLE（イルソーレ）（金沢キャンパス）

750席を有すレストランのフロアには、天窓と壁面に全面ガラスを採用し、明るく大きな空間で食事を楽しむことができます。ボリュームのあるメニューから、ヘルシーなメニュー、そして単品メニューも充実しています。また、CO₂排出量を抑えるため、オール電化の厨房を採用するなど、環境に配慮した設備が整えられています。

詳細は、<https://www.kanazawa-it.ac.jp/campuslife/gakushoku.html>で紹介しています。

**コンビニエンスストア Y ショップ アクア（金沢キャンパス）**

パン工房で職人が焼く本格的な焼き立てパン、お弁当やお菓子、ドリンクなどが充実しています。詳細は、<https://www.kit-group.jp/pages/91/>で紹介しています。

Golden Eagle Cafeteria（白山麓キャンパス）

KIT Innovation Hub の2階にあります。学生生活を充実させるために、食事のサポートも欠かせません。本校では、朝・昼・夕の3食に加え、夕食時に準備される夜食（軽食）を必要に応じて部屋に持ち帰ることができます。また、宗教やアレルギーなどによる食事制限については、個別対応も可能です。

詳細は <https://www.ict-kanazawa.ac.jp/campuslife/dining/>で紹介しています。

《体育施設》

屋内施設	扇が丘キャンパス (金沢キャンパス)	第一体育館	体育館	1,163 m ²	2,605 m ²
			卓球場	431 m ²	
			剣道場	372 m ²	
			その他	639 m ²	
		第二体育館	体育館	1,582 m ²	4,465 m ²
			柔道場	596 m ²	
			トレーニングルーム	542 m ²	
			トレーニングコート	341 m ²	
	白山麓キャンパス	体育館	その他	1,404 m ²	1,589 m ²
			体育館	793 m ²	
トレーニングルーム			70 m ²		
天池自然学苑	体育館	その他	726 m ²	1,969 m ²	
		体育館			
		体育館			
屋外施設	扇が丘キャンパス (金沢キャンパス)	グラウンド		11,548 m ²	
		テニスコート（オムニコート）		7 面	
	白山麓キャンパス	スリー・オンスリーコート		1 面	
		バドミントンコート		1 面	
	天池自然学苑	野球場		13,025 m ²	
		グラウンド		15,906 m ²	
		サブグラウンド		4,005 m ²	
		ゴルフ練習場		16,481 m ²	

7. 入学金・授業料・その他の費用

7.1 入学金・授業料ならびに寮費、食費

2025 年度（令和 7 年度）は以下の通りです。

(1) 入学金

200,000 円です。

(2) 授業料ならびに寮費、食費

表 7 - 1 に示す通りです。

表 7 - 1 授業料ならびに寮費、食費（1 学年及び 2 学年は全寮制）

		月 額	学期額	年 額	備 考
第 1 学年	授業料	152,000 円	912,000 円	1,824,000 円	※夜間授業料及び教材等一式を含みます
	寮費	45,500 円	273,000 円	546,000 円	※共用部清掃代、リネン代等を含みます
	食費	52,500 円	315,000 円	630,000 円	※食費は、学年暦に準ずる食事提供期間とし、その経費を月割りに換算した額となります
第 2 学年	授業料	152,000 円	912,000 円	1,824,000 円	※夜間授業料及び教材等一式を含みます
	寮費	45,500 円	273,000 円	546,000 円	※共用部清掃代、リネン代等を含みます
	食費	52,500 円	315,000 円	630,000 円	※食費は、学年暦に準ずる食事提供期間とし、その経費を月割りに換算した額となります
第 3 学年	授業料		125,000 円	250,000 円	※教材等一式を含みません
	オtagポリテクニク 授業料			25,000 NZ ドル (2,250,000 円)	※教材等一式を含みません
	ホームステイ費用			20,960 NZ ドル (1,886,400 円)	※課外活動費、疾病・傷害・損害賠償等の 保険料を含みます
第 4 学年	授業料		800,000 円	1,600,000 円	※教材等一式を含みません
第 5 学年	授業料		800,000 円	1,600,000 円	※教材等一式を含みません

* 1 学年及び 2 学年の教材等には、パソコン、体操服、教科書等の費用を含みます。

* 留学にかかる費用には渡航費用は含まれていませんので、別途必要となります。

* オtagポリテクニクの授業料及びホームステイ費用等は、ニュージーランド政府の規則に従ってオtagポリテクニクが 2026 年 11 月に決定し、2026 年 11 月に日本円での全額一括納入とします。

* 為替レートは、NZ ドル 1.00 = ￥90.00 で算出しています。

上記の納入金以外に、委託徴収会費（年額）があります。（2024 年度参考）

育友会費（保護者会費）20,400 円 / 学生会費 9,600 円 / 同窓会費 6,000 円

7.2 ICTリーダーシップアワード 奨学生制度

本校では併設校の金沢工業大学と連携して、国連が定めた SDGs（誰一人取り残さない）の理念の達成に貢献するため、身近な社会課題と地球規模課題を結びつけた社会実装型の教育研究プロジェクトを推進します。本校では、「グローバルイノベーター」の育成を目指し、ICT リーダーシップアワード奨学生制度を設け、多様な活動において卓越したリーダーシップを発揮する人材を支援します。

詳細は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/ja/admissions/scholarship/>で紹介しています。

7.3 学生寮・下宿

白山麓キャンパスには学生寮があり、第1学年と第2学年の生活の場となっています。寮内には管理人の役目を担うレジデント・アドバイザーがおります。第4学年以降、メインキャンパスとなる金沢キャンパス周辺には、民間経営による「KIT 指定学生アパート・寮」があります。1部屋夕食付きで1ヵ月55,000円位が標準です。指定寮にも管理人が在中しております。レジデント・アドバイザー、管理人それぞれが寮生一人ひとりの生活態度に目を配っています。

クラス担任をはじめ教職員も、寮生には特に目を配らせ、健康や生活面に異変がないかを常に注意しています。学生が病気などになった場合は、レジデント・アドバイザーや管理人がクラス担任に連絡し、場合によってはクラス担任が様子を見に行き、教職員が専門医まで連れていくこともあります。

白山麓キャンパス学生寮の詳細は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/campuslife/accommodation/>で、金沢キャンパスの KIT 指定学生アパート・寮の詳細は、<https://www.kit-group.jp/apartment/>でそれぞれ紹介しています。

表 7-2 家賃相場（金沢キャンパス周辺）

部屋のタイプ	広さ	形態	価格
アパート・マンション	6～13 畳	バス・トイレ・台所・冷暖房付き	20,000 円～73,000 円
アパート（夕食付）	6～10 畳	バス・トイレ・台所・冷暖房付き	29,000 円～72,000 円 夕食費：16,000 円～21,000 円
共同寮	4.5～9 畳	バス・トイレ・台所共同	16,000 円～21,000 円 夕食費：12,000 円～17,000 円※ ※朝食・夕食付の場合は 24,000 円～25,000 円

8. 課外活動と課外学習

本校では、学生の自主的な集団活動により、心身ともに健全な人間性を育むため、正課の授業に加えて、課外の活動をおおいに奨励しています。

8.1 学生会、クラブ活動

学生会は、本校の学生全員が所属している学生団体で、学級委員会など3つの専門委員会が活動しています。

- ① 学 級 委 員 会 : 各学級2名。学生会の運営に協力し、校紀校風の醸成向上にあたります。
- ② 文化・体育委員会 : 各学級2名。文化的行事・体育的行事の運営に協力します。
- ③ クラブ活 動 委 員 会 : 各クラブ1名。クラブの健全な活動向上に協力します。

本校では、テニス、バトミントン、デザイン&ファブリケーションの3つのクラブが活動しています。

8.2 学科・研究室・教育支援センターによる課外の学習プログラム

学科、研究室で実施している授業外の学習プログラムで、現在3つのプログラムに学生が積極的に参加しています。

- ① 全国高等専門学校ロボットコンテスト
- ② 全国高等専門学校プログラミングコンテスト
- ③ ICT Startup Competition

8.3 夢考房プロジェクト

夢考房プロジェクトは、グループ活動を前提として、学生メンバーが立案・調査・設計・製作・分析・評価という一連のモノづくりのプロセスを体験すると共に、スケジュール管理、予算管理などを自主的に行なう学生プロジェクトです。

- | | | |
|--------------|-------------|------------------------|
| ① NHK 高専ロボコン | ⑥ 義手研究開発 | ⑪ 人工衛星開発 |
| ② データサイエンス | ⑦ 建築デザイン | ⑫ RoboCup@Home |
| ③ エコラン | ⑧ メカニカルサポート | ⑬ 額プロジェクト |
| ④ 人力飛行機 | ⑨ フォーミュラカー | ⑭ Start Up (魚ロボット開発 G) |
| ⑤ ロボット | ⑩ 小型無人飛行機 | |

詳細は、<https://www.kanazawa-it.ac.jp/yumekobo/project/index.html> で紹介しています。

8.4 地域連携への取り組み

本校では、地域社会への貢献を教育の一環としてとらえ、積極的に取り組んでいます。

(1) 白山麓キャンパスでの高専紅はるかのブランド展開

2 年生は「エンジニアリングデザイン II」の授業の一環で、白山麓キャンパス校舎前の休耕田を活用した地域創生に取り組んでいます。活動は「アグリビジネス班」と「アグリテック班」に分かれて通年で行われます。「アグリビジネス班」はサツマイモ「紅はるか」の栽培と販売を通じて農業法人経営の模擬体験をすることでビジネスを実践的に学び、「アグリテック班」は AI を活用した獣害対策システムの開発と運用に取り組んでいます。2024 年度、「アグリビジネス班」は、「紅はるか事業」と 2023 年度よりスタートさせた「アサギマダラ事業」を運用し、アサギマダラの"集客力"を活かした新規ビジネスの開拓に引き続き取り組んでいます。また、紅はるかのマスコットキャラクター、キーホルダーやマグネットなどのグッズを開発しました。

詳細は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/2024/10/23/31126/?mode=ja> で紹介しています。

(2) 大学コンソーシアム石川

本校では、石川県と県内の大学や短大、高専などの高等教育機関が参加する公益社団法人大学コンソーシアム石川に加盟しており、大学間の連携を深め、地域社会や産業との結び付きを強化しています。同法人の加盟している教育機関は以下の 20 校です。

金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学、石川県立看護大学、石川県立大学、金沢美術工芸大学、公立小松大学、金沢工業大学、金沢星稜大学、金沢医科大学、北陸大学、金沢学院大学、金城大学、かなざわ食マネジメント専門職大学、北陸学院大学、放送大学石川学習センター、金沢学院短期大学、金城大学短期大学部、金沢星稜大学女子短期大学部、石川工業高等専門学校、国際高等専門学校

9. 外部評価の状況

本校では、外部評価による評価基準を積極的に導入し、社会が必要とする教育、研究、サービスの継続的な改善活動に努めるとともに、その卓越性を追求し、社会に貢献することを目指しています。

外部評価の詳細は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/evaluation/> で紹介しています。

① 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構〔文部科学大臣認証評価機関〕

本校は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の『高等専門学校機構別認証評価』を受け、同機構の評価基準を満たしていると認定されました。

認定期間：2020年4月1日～2027年3月31日

詳細は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/evaluation/accredited/>で紹介しています。

10.財務情報

財務情報として、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書、事業報告書及び監査報告書を、学園（学校法人金沢工業大学）の状況 https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/gakuenjokyo.html で紹介しています。